

平成22年度 高冷地水稻生育速報(第1報)

岐阜県中山間農業研究所

1. 生育概況(6月8日調査)

品種名	年度	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉色		葉齡
				葉色板	SPAD値	
コシヒカリ	本年	21.0 (81%)	111 (43%)	3.4 (-0.7)	29.9 (-6.7)	5.9 (-0.3)
	前年	—	—	—	—	—
	平年	25.9	257	4.1	36.6	6.2
ひとめぼれ	本年	21.8 (100%)	144 (53%)	2.8 (-1.6)	28.6 (-9.9)	6.2 (+0.0)
	前年	—	—	—	—	—
	平年	21.9	270	4.4	38.5	6.2
たかやまもち	本年	22.5 (83%)	64 (29%)	2.6 (-1.7)	25.8 (-10.1)	5.4 (-0.7)
	前年	—	—	—	—	—
	平年	27.0	222	4.3	35.9	6.1
ひだほまれ	本年	23.9 (86%)	109 (49%)	2.9 (-1.2)	30.4 (-5.8)	5.9 (-0.4)
	前年	—	—	—	—	—
	平年	27.8	223	4.1	36.2	6.3

栽培条件: 移植5月18日 栽植密度22.2株/m² 1株4本稚苗移植 基肥N=0.5kg/a

平年値: 過去5年間の平均値

()内の数値は対平年値

2. 生育状況と当面の管理

1) 気象概況

移植前後となる5月中旬は高温で推移したが、5月下旬は日中の気温が上がらず、平均気温は平年より低くなっている。また、5月下旬は降雨が多く、日照不足となった。6月に入ってから雨もなく日照も増えているが、夜温がやや低く平均気温は低めとなっている。東海地方の梅雨入りは、平年で6月8日ごろであるが、まだ梅雨入りしておらず、遅れている。

2) 生育状況

草丈は、「ひとめぼれ」で平年並となった他は、平年対比81~86%とかなり短くなっている。茎数は、いずれの品種も平年を大きく下回り、特に「たかやまもち」では平年対比29%と極端に少なくなっている。

葉色は、いずれの品種でも葉色板、SPAD値とも平年より値が低く、葉色が薄い状態となっている。葉齡は、平年並となった「ひとめぼれ」の他はいずれのも平年より遅れが目立つ。

移植後に日中の温度が上がらず日照不足となったことから、活着が遅れ、さらに「ガス」が発生し始めたことから生育が進んでいない。

3) 病虫害等の発生状況

5月下旬の降雨により除草剤の散布時期を逸したため、「ノビエ」等の雑草が多くみられる他、アオミドロ・藻類やこれらによる表層はく離が部分的に見られる。

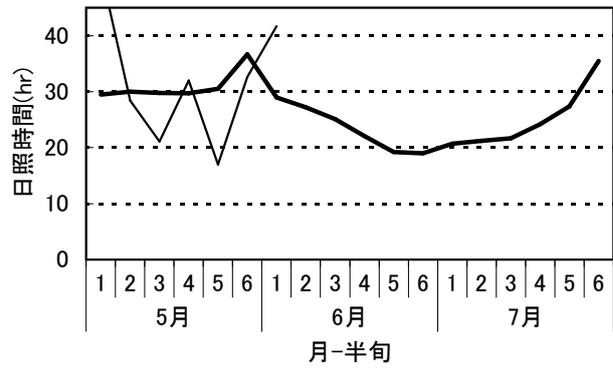
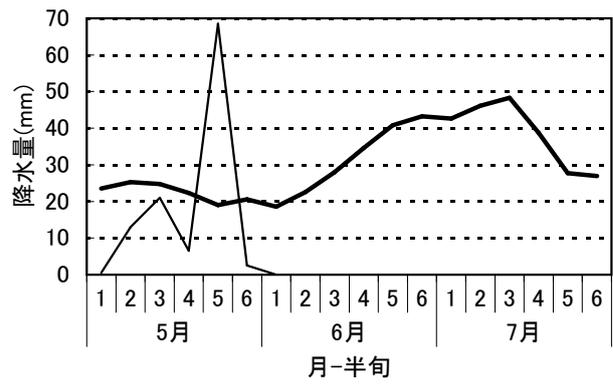
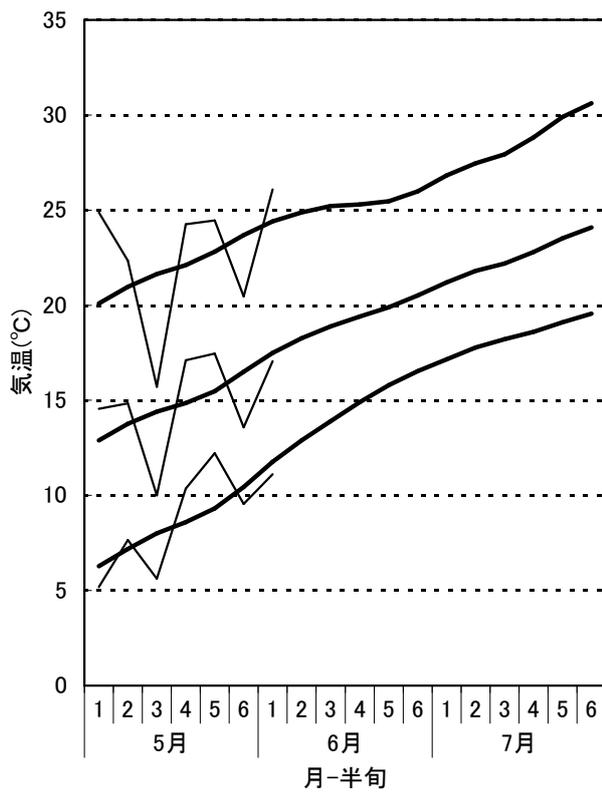
箱薬剤を施用していないほ場では、5月末からイネミズゾウムシが発生しており、食害痕が散見される。

4) 今後の管理

除草剤の処理時期との兼ね合いもあるが、生育促進、土壌中のガス抜き及びアオミドロ・藻類対策のため、移植後20日を目安に早期中干しを実施すると良い。いったん落水してから2~3日干し、田面に細いヒビが入ったら入水する。干し過ぎずに田面を軽く固める程度とする。

生育が悪い場合は、早期中干しとその後の浅水管理で地温を高め、生育の促進を図る。十分に根が発育していない状態では、追肥の効果は期待できないので当面見合わせた方が良い。

<参考> 半旬別気象図(高山市アメダス, 6月5日現在)



— 平年(1971~2000年) — 本年(2010年)

岐阜県中山間農業研究所
 TEL 0577-73-2029
 FAX 0577-73-2751
<http://www.cc.rd.pref.gifu.lg.jp/k-agri/>